

パピーウォーカー

今年家族で「パピーウォーカー」に取り組んでいます。



盲導犬候補の生後間もない仔犬を自宅で預かり約1年間育てるボランティアです。

初夏、生後1カ月のラブラドルレトリバーの仔犬を盲導犬訓練所に迎えに行き、この胸に抱いた緊張・喜び・感激は忘れられません。

「人の役に立ち、喜んで働く犬に育てるにはどうすればいいか？」

その問いは、自分自身の子育てにも通じ、今貴重な経験をさ

せてもらっています。E・H

芥川の猫ちゃん

一年少し前の朝、芥川沿い遊歩道の公園で、彼と彼のグループ7匹を見た。

こんなところに！うっそう！と思えるほどの美形、シヤムカペルシャのミックス。目はブルー・ふさふさした長い尾は見事だ。娘の飼っているシヤムの名が銀。私は彼に「芥川の銀ちゃん」と名前をつけ、以来一年余りネコ小母さんをしている。早朝もう一人ネコ小父さんもいるらしい。「銀ちゃん、銀ちゃん」と呼ぶと、どこからか彼と



彼のグループが姿を現す。すり寄りつつは来るが絶対に触らせ

は野良猫の性か。

ある時、ざつくりと肩先に傷グループを守ってカラスとでも戦ったの

であろうか。今年の酷暑に猫グループのメンバーは半減して、銀の毛並みもみすぼらしく哀



れだった。秋、三匹に加えて仔猫が一匹いるではないか。銀の毛並みも冬の準備か、堂々と美しい。「餌、やらないでください」には意味があるのはわかるが、健気に生きていく彼らに応援せずには

我が家の柿木

我が家には久保柿の木がある。私が嫁いでくるずっと前から大木であった。そして四十年弱過ぎて、十一月頃には、私たちに実を与えてくれる。

春には五角形の白い花が木

の下の地面いっぱい落ちる

う少し時が過ぎると、小さな緑の実が、地面に転がっている。夏のさなか実はだんだん大きくなるが落ちる数も少なくなる。葉や小枝もハラハラと木か



ら離れていく。直径五センチ位の実が黄色から柿色になった頃、一つ握いでみると固いが甘くとても美味しい。毎年千個程人の口に入る。

もう柔らかくなり、細い枝の方に付いている柿は鳥が食べに来て、食べ残した皮や種が地面に落ちている。

E・H

アボカドの鉢植え

今、我が家の食卓の上にアボカドの鉢植えが高さ二十五センチに育っています。夏に私の奈良にいる妹が珍しいからと重いのに持参してくれたもの。妹はアボカドの他にマンゴーも植えているそうです。どちらも土の上にゴロンと、又ベターと置いてあるだけのこと。ご覧のようにあの硬くて丸い大きな種が真二つに縦に割れて、その間からスックと緑色の茎が伸びて上方にもう十二枚の葉が茂りました。初めてのこの冬、室内とはいえ常夏のアボカドが無事に越せるか？楽しみです。最近のアボカドで私自身が発芽の瞬間を見たいと思っています。

K・N

